

2030年まで、あと10年。持続可能なシステムに変えなければ食料危機がくる。

NHKスペシャル・2030未来への分岐点2「飽食の悪夢 水・食料クライシス」(2021年2月7日放送)

番組の構成	各テーマの具体的内容
飽食と飢餓 ふたつの世界	<p>①世界は飽食と飢餓に切り裂かれている。世界がはらむ「大きな矛盾」。 日本の食品ロスが年間612万トン。国連の食料支援の約1.5倍。</p> <p>②穀物生産量を世界人口で割ると1人1日2348kcal。生存に十分な量。</p>
飽くなき”肉”消費 ”不都合な真実”	<p>①牛肉1kg生産するのに穀物6~20kg。穀物の3分の1が食用ではなくエサに使われている。</p> <p>②穀物生産に膨大な水を使用。アメリカの牧場ではあと10年で地下水が枯渇。2050年には世界の7割の地下水が枯渇するという予測。肉の大量消費が水不足を招きさらなる危機を招く。</p>
食料資源 加速する偏在 水の枯渇	<p>①牛肉1kg生産するのに穀物6~20kg、水15415リットル(風呂77杯分以上) ワイン1本に水652.5リットル。スラムで2週間可決使う水をワイン1本で消費。</p> <p>②食料自給率38%の日本が世界から輸入するバーチャルウォーターは年間80兆リットル、年間使用量とほぼ同じ。</p> <p>③世界中の水の枯渇を心配しなければならない。(トゥベン大学、リック・ホヘボン助教授)</p>
食料システム 深刻化する”ひずみ” 土の劣化と森林伐採	<p>①1960年代の緑の革命(農薬と化学肥料の大量使用による収量増大)がひずみの始まり</p> <p>②単一品種の大規模栽培は森林伐採を必要とし、温室効果ガスの原因となる。</p> <p>③食料システムの改善 ア) 既存農地で持続可能な方法で生産性を高める、イ) 森林破壊をやめ生態系や熱帯雨林を守る、ウ) 食生活を変え食品ロスや廃棄物を減らす、エ) 劣化した農地回復し自然を取り戻す。(世界資源研究所 クレイグ・ハンソン副代表)</p>
飽食の悪夢2050年予測 ステーキ肉10万円	<p>①2050年、好きなものを食べられるのは金持ちだけになる。ステーキ肉10万円。</p> <p>②食料問題も2030年が分岐点。あと10年で食料資源の偏りを解消し、飢餓を解決すべき。地球は人間を養える限界を超える。</p>
100億人の人口、食料危機 は社会の不安定化・大量難民	<p>①国連は2030年までに全世界で飢餓ゼロを目標としている。見通しは厳しい。新型コロナ、地球温暖化、紛争の増加で飢餓は悪化の一途。いま改革に着手しなければ社会の不安定化を招き大量の難民が発生する。</p>
”フードショック”危機 連鎖の衝撃 先進国にも	<p>①気候変動、水の枯渇、食料の輸出停止でフードショックは先進国にも及ぶ。食料価格の高騰は抗議行動や暴動につながり、日本でもその確率は数パーセント。(アングリア・ラスキン大学 アレッド・ジューンズ教授)</p>
突然の危機 その時人々は ベイルートでの現実	<p>①ベイルートは自給率40%、輸入で豊かな食生活を享受。2年前の国家財政の悪化、激しいインフレ、国の備蓄庫の爆発などで食料品が高騰。生活は悪化し、2019年夏、デモや暴動が起きた。</p> <p>②資源の偏った社会はほぼ確実に崩壊する。(メリーランド大学 サファ・モーテ博士)</p>
飽食の悪夢2050年予測 日本にも食料届かず	<p>①2050年、日本に食料が届かなくなるという最悪の予想。食料生産と供給能力がさらに下がった。もともと自給率の低かった日本では危機を前に無力。</p>
持続可能な世界のために 変革への”一歩” ●牛肉削減メニュー ●人工肉の開発 ●不耕起農業 ●食品ロス削減	<p>①食料システムを根底から見直す動きが始まった。</p> <p>②地球を守りながら100億人を養える食事を提案。(プラネタリーダイエット) 半分が野菜、牛肉や豚肉は8割以上削減、タンパク質は大豆やナッツで補給。肉を生産するために使われていた穀物を貧困層に回し偏りを解消。(EAT財団 グンヒルド・ストルダレン会長)</p> <p>③2021年、国連で初めて食料サミット。食料システム改革の道筋を探る。 ア) 肉の消費の大幅削減。大豆やココナッツオイルを原料とする人工肉の開発。水の使用量はマイナス87%、温室効果ガス排出量はマイナス89%。(日本でもバーガーキングが挑戦) イ) カカオ農家での持続可能な農法。不耕起農業。下草を刈らず土の荒廃を防ぐ。 ウ) 食品ロスの削減。廃棄されそうな食品を確保し、食料を得られない人々に回すファームリンクプロジェクト。</p> <p>④若い人へのメッセージ。食料の探求で現在の文明を可能にした。次の探求は持続可能なシステムを探求すること。(世界資源研究所 クレイグ・ハンソン副代表)</p>
2050年から2021年の 若者へのメール	<p>今、世界をまっすぐ見つめてほしい。そして危機を前にしても勇気をもって一歩を踏み出してほしい。たとえ明日滅亡しようとも、私は、リンゴの木を植える。 2021年に生きる若者。「知らなかった。私の足元にある食の成り立ちを」</p>

